

Wh 疑問文において「ノ」の有無が 問題になるとき

林 淳子

1. 本稿の目的と概要

1. 1 Wh 疑問文と「ノ」の有無

現代日本語の疑問文の文末形式は多様であるが、助詞「ノ」の有無に注目すれば、疑問文をノ有り疑問文とノ無し疑問文に二分することが可能である。

ノ有り疑問文…「～の?」「～のか?」「～のですか?」「～のだろうか?」など

ノ無し疑問文…「～φ?」「～か?」「～ですか/ますか?」「～だろうか?」など

そして、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の意味の違いに注目すると、Yes/No 疑問文においては違いがほとんど感じられない場合(1)から決定的に異なるためにどちらか一方しか使えない場合(2)(3)まで幅広いのに対して、Wh 疑問文においては両者の差があまり感じられない場合が多い((4)(5)(6))^{注1}。

(1) (午後1時にキャンパスですれ違った友人に)

「もうご飯食べたの?」／「もうご飯食べた?」

(2) (松葉杖をつく人に)

「骨折したんですか?」／「#骨折しましたか?」

(3) (待ち合せに遅れて来た人が)

「#ごめんね、待ったの?」／「ごめんね、待った?」

(4) (帰宅した夫に対して、妻が)

「お昼ご飯、何食べたの?」／「お昼ご飯、何食べた?」

注1 例文に付す記号の意味は以下の通りである。

#…文法的には適切であるが、その場面では使いにくい。

??…文法的に不安定である。

?…文法的に少し不自然である。

(5) (松葉杖をつく人に)

「どうしたんですか?」 / 「どうしましたか?」

(6) (待ち合せに遅れて来た人が)

「ごめんね、どのくらい待ったの?」 / 「ごめんね、どのくらい待った?」

「ノ」の有無に伴う意味の違いのあり方が Yes/No 疑問文と Wh 疑問文とでこのように異なるのは、以下の事情によると考えられる。

大鹿 1990 によれば、Yes/No 疑問文は聞き手によって知覚される事態と話し手の想定としての事態との関係を疑う文である。その中でも特に、「ノ」がある Yes/No 疑問文（以下、本稿ではこれを「Yes/No ノ有り疑問文」と呼ぶ）は「の」が句の主語を含んでそれまでの部分をすべて一つにしてしまうことによって、却って主語（引用者注：「聞き手によって知覚される事態」）の存在が明示されている」という。本稿の言葉で言い換えれば、Yes/No 疑問文において話し手が言語化した事態を「ノ」で括るということは、（言語化した事態との一致が問題にされる）聞き手の把握する事実への意識を積極的に表現することを意味する。田野村 1990 が指摘する、「聞き手の個人的な領域に立ち入って尋ねるような話し手の姿勢を感じさせる」という「のか」を伴う疑問文の共通性格も、このような事情からもたらされるものであろう。

これに対し、言語化した事態を「ノ」で括るという特別な仕掛けを持たない Yes/No 疑問文（以下、「Yes/No ノ無し疑問文」と呼ぶ）は、実態としては話し手が言語化した事態が事実として存在するかを問うことが多いとはいえ、ノ有り疑問文ほど強く事実への意識を持つわけではない。

Yes/No ノ有り疑問文と Yes/No ノ無し疑問文のこのような違いを反映して、具体的な言語場においてはどちらか一方しか使えない場合が存在する。(2)のように相手が松葉杖をついているという結果事態が目前にあり、これと因果関係で結ばれる事実（原因事態）の存在を強く意識した問いの場面では、Yes/No ノ有り疑問文を用いることが求められる。反対に、事実を問うとは言いにくい場面、たとえば(3)のように「相手は待った」という客観的な事実が分かった上でそれとは別に相手の評価「待ったと言えるくらい待ったか」をたずねる場面では Yes/No ノ無し疑問文を用いることが求められるのである^{註2}。

一方、Wh 疑問文はそもそも、不明部分以外は確かであるという前提に基づいて成立する文であるため、「ノ」の有無にかかわらず本質的に、確かな事実への意識を強く持つ。Wh ノ有り疑問文「お昼ご飯、何食べたの?」も Wh ノ無し疑問文「お昼ご飯、何食べた?」も、「相手はお昼ご飯に（何かを）食べた」という事態を前提 (presupposition)

注2 Yes/No 疑問文における「ノ」の有無については別稿で詳細に論じる予定である。

として（つまり、仮定だとしても世の中に存在する事実として）一旦きちんと意識し、その前提に合致するような不明項の明確化を求めて問う文である。したがって、Wh ノ無し疑問文も、Wh 疑問文であるゆえに前提たる事実を強く意識しながら事態中の不明項 x の明確化を求めて問うのであり、Wh ノ有り疑問文が「ノ」で一つにまとめた内容「お昼ご飯に x を食べた」と前提たる事実が一致するように x の明確化を求めて問うのと大きな違いはない。つまり、Wh 疑問文においてはノ有り疑問文とノ無し疑問文の差は原理的にほとんどなく^{注3}、そのため(4)～(6)のようにどちらを使ってもかまわない場合が多いのである。

ところが、この原則に反して、Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文とを同じように用いることができない場合が一定の割合（次頁の表 1 参照）で存在する。

(7) 「なんで先に帰ったんですか？」 / 「??なんで先に帰りましたか？」

(8) (レストランでメニューを見ながら)

「何食べるの？」…相手の心づもりをたずねる

「何食べる？」…相談

論理の面で考えればほとんど差がないように思われる Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文とが、異なるものとして扱われるのはどのような場合なのか。疑問文における「ノ」のはたらきを考察する上で、このような一種の例外を適切に処理しておくことは議論をより精密にするために必要な作業であろう。そこで本稿では、Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文を同じように使うことができないケースを洗い出し、どのような場合にどのような違いが見られるのか整理して示すことを目的とする。

1. 2 調査結果の概要

ノ有り疑問文とノ無し疑問文を同じように使うことができないケースを抽出する具体的な方法は、以下の通りである。まず、稿末に挙げる話し言葉の資料から Wh 疑問文の全文例を採集し^{注4}、ノ有り疑問文の例については、同じ場面でノ無し疑問文を使うことが可能か否か、可能である場合両者の意味合いに違いはないかを本稿筆者が判断する。同様に、ノ無し疑問文の例についても、同じ場面でノ有り疑問文を使うことが可能か否か、可能である場合両者の意味合いに違いはないかを判断する。

注3 この原則について、金水 2012 は「疑問詞疑問文は疑問詞は焦点であることには違いないが、むしろそれ故に焦点卓立構文（引用者注：現代語ではノ有り文（平叙ノダ文、ノ有り疑問文）がこれを担う）を必ずしも必要としない。」と述べている。

注4 ただし、本文中の例文は作例である。

なお、この整理・分析に際して、以下の Wh 疑問文は扱わない。

- ①「あの人は誰ですか？」のように名詞述語文の述語部分に不定語を置く Wh 疑問文
②「どこに行こう？」「どこに行こうか？」のように述語が動詞シヨウ形である Wh 疑問文

①は吉田 1994 が指摘する通り、ノ有り疑問文にすると一律に詰問調になり（「あの人は誰なんですか？」）、状況に応じて現れるノ有り疑問文とノ無し疑問文の意味合いの違いを見出すという本稿の目的に適さないため、分析の対象から省く。②はこれに形態的に対応するノ有り疑問文が存在しないため、分析の対象とならない。

結論を先に述べれば、Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文の違いのあり方には、次の3つのケースがある。

(α) 文としての安定度が異なる（ノ有り疑問文の方が安定する）

(例)「なんで先に帰ったんですか？」／「??なんで先に帰りましたか？」

(β) 意味合いが異なる

(例) (友人とレストランでメニューを見ながら)

「何食べるの？」…相手のつもりをたずねる／「何食べる？」…相談

(γ) その場面でその文を使うことの自然さが異なる（ノ無し疑問文の方が自然である）

(例) (タクシーの運転手が乗ってきた客に)

「#どちらに行くんですか？」／「どちらに行きますか？」

このような違いがどの程度の割合で現れるかは、話し手の性別や年齢などに左右されるため、作品によって大きく異なる⁵⁾。また、違いが見られる例の中でもっとも多いのは (α) のケースであるが、その割合も作品によって異なる。本稿は論理の上では大差はないはずの Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文と同じように使えない場合があるという事実注目してその要因を探ろうとするものであり、数的調査を目的とするわけではないが、作品別に各ケースの例数とその割合を挙げれば、表1の通りである。

表1 Whノ有り疑問文とWhノ無し疑問文の意味合いの違い

作品名	差なし	(α)	(β)	(γ)	合計
毎日かあさん	9 (0.23)	23(0.59)	2 (0.05)	5 (0.13)	39(1.00)
八日目の蟬	18(0.46)	16(0.41)	4 (0.10)	1 (0.02)	39(0.99)
大鹿村騒動記	23(0.68)	9 (0.26)	0 (0.00)	2 (0.06)	34(1.00)
モテキ	16(0.55)	10(0.35)	1 (0.03)	2 (0.07)	29(1.00)

注5 女性の発話が多い作品では (α) の割合が高くなり、男性の発話が多い作品では Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文に差が見られない場合の割合が高くなる傾向にある。

スイートリトル ライズ	11(0.37)	12(0.40)	7 (0.23)	0 (0.00)	30(1.00)
孤高のメス	16(0.62)	9 (0.35)	1 (0.04)	0 (0.00)	26(1.01)
酔いがさめたら、 うちに帰ろう	19(0.56)	12(0.35)	3 (0.09)	0 (0.00)	34(1.00)
余命1ヶ月の花嫁	9 (0.45)	7 (0.35)	4 (0.20)	0 (0.00)	20(1.00)
ディア・ドクター	11(0.55)	6 (0.30)	3 (0.15)	0 (0.00)	20(1.00)
沈まぬ太陽	28(0.72)	7 (0.18)	4 (0.10)	0 (0.00)	39(1.00)
日本の黒い夏	25(0.58)	13(0.30)	3 (0.07)	2 (0.05)	43(1.00)
連弾	9 (0.53)	5 (0.29)	1 (0.06)	2 (0.12)	17(1.00)
ターン	11(0.48)	9 (0.39)	2 (0.09)	1 (0.04)	23(1.00)
GO	27(0.54)	20(0.40)	2 (0.04)	1 (0.02)	50(1.00)
39	18(0.47)	17(0.45)	2 (0.05)	1 (0.03)	38(1.00)
学校の怪談4	16(0.36)	25(0.56)	3 (0.07)	1 (0.02)	45(1.01)
皆月	25(0.56)	12(0.27)	4 (0.09)	4 (0.09)	45(1.01)
どこまでもいこう	4 (0.50)	3 (0.38)	1 (0.13)	0 (0.00)	8(1.01)
学校Ⅲ	17(0.45)	19(0.50)	2 (0.05)	0 (0.00)	38(1.00)
シコふんじゃった	13(0.48)	12(0.44)	2 (0.07)	0 (0.00)	27(0.99)

以下、(α) (β) (γ) のそれぞれのケースについて、どのような状況下でその違いが現れるのかを整理し、そうなる事情を考察する。

2. (α) ノ有り疑問文の方が安定するケース

2. 1 4つの条件

Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文は、原理的に大差のない二者であるから、この場合には必ずこちらが用いられるというような厳密な使い分けは存在しない。しかし、次の(ア)～(エ)の条件のどれかが成立するとき、文としての安定度はノ有り疑問文^{注6}の方が圧倒的に高く、ノ無し疑問文は不安定な文と感じられる傾向が強くなる。ただし、(ア)～(エ)は、それぞれ異なる観点から疑問文に付される条件であるため、一つの

注6 以下、特に断りのない限り、「ノ有り疑問文」はWh ノ有り疑問文を、「ノ無し疑問文」はWh ノ無し疑問文を指す。

文が複数の条件を備えていることもあり得る。

(ア) 眼前の事実の詳細・真相をたずねる

話し手の目の前で起こっている事実について、目には見えない詳細や真相をたずねる場合にはノ有り疑問文の方が安定する。たとえば、(9)において話し手は、相手がショーウインドウの中の何かを見ているという眼前の事実は了解できても、ショーウインドウの中の何を見ているかまでは観察だけでは知り得ず、その目に見えない詳細を問うているのである。

(9) (ショーウインドウを覗く友人に)

「何見てるの？」

「#何見てる？」

(10) (口をもぐもぐ動かしている息子に)

「何食べてるの？」

「#何食べてる？」

この傾向は、次の2例を比較すればより一層明らかであろう。

(11) (海外赴任中の父親に、子どもが電話でたずねる)

「お父さん、次はいつ日本に帰ってくるの？」

「お父さん、次はいつ日本に帰ってくる？」

(12) (子どもが学校から帰宅すると、海外赴任中の父親が家にいた)

「お父さん！いつ帰ってきたの？」

「お父さん！#いつ帰ってきた？」

(11)のように父親が帰国するという事態を想像し、その時期について明確化を求める場合にはノ有り疑問文もノ無し疑問文も使うことができるが、(12)のように父親が帰国したという事実を目の前にして問う場合には、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の安定度に差が生まれる。

なお、目の前で繰り広げられる相手の動作だけでなく、聞こえてくる話し声や相手の発言内容など情報として話し手に与えられるものも、広い意味で眼前の事実に含まれる。

(13) (友人が来ている息子の部屋におやつを持ってきた母親が)

「何のお話してるの？ママにも教えてちょうだい」

「#何のお話してる？ママにも教えてちょうだい」

(14) 甲：「今から大学時代のバイト仲間と久しぶりに会うんだ」

乙：「へえー、どんなバイトしてたの？」

「#へえー、どんなバイトしてた？」

ただし、相手の発言内容が(14)のように相手自身について語ったものである場合にはノ有り疑問文の安定度が高まるのに対し、次の(15)のように第三者の動作・状態である場

合にはノ無し疑問文でも構わないと感じられ、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の安定度に明らかな差を見出すことはできない。

(15) 次郎：「さっき、図書館に太郎がいたよ」

三郎：「へえー、どんな本読んでたの？」

「へえー、どんな本読んでた？」

これは発言など情報として得た内容の詳細・真相をたずねる場合にのみ起こりうる現象である。眼前で実際に繰り返られる動作・状態の詳細・真相をたずねる場合には、第三者のことであってもやはりノ有り疑問文の方が安定する。

(16) (読書に没頭している第三者(太郎)を横目に見ながら)

次郎：「太郎は何を読んでいるの？」

「#太郎は何を読んでいる？」

三郎：「好きな作家の新作らしいよ」

この比較から、情報として与えられた事実は、広い意味では眼前の事実に含まれるといっても、目の前で繰り返られる動作・状態の場合ほどノ無し疑問文の不安定度が高いわけではないことが分かる。

(イ) 受け入れがたさ・意外さを表明する

事態を承認留保する文、すなわち事態を承認しかねることを表明する文である疑問文^{注7}は、既に起こってしまった事態や現在起こっている事態が話し手にとって受け入れがたいものであることを表すのに用いることができる。そして、受け入れがたさ・意外さを表明するWh疑問文は、ノ有り疑問文の方が安定する傾向にある^{注8}。

(17) (取り調べ中の刑事が、何を聞いても答えない容疑者に)

「いつまで黙っているんですか？」

「#いつまで黙っていますか？」

(18) (繁忙期に突然休暇を申請する部下に対して)

「この忙しい時期に何を考えているんですか？」

「??この忙しい時期に何を考えていますか？」

ただし、ノ無し疑問文でも、普通体であり、かつ、文末に「カ」「ノ」「ダロウ」などの形式が何も付かない文は、受け入れがたさを表明することができ、その場合には、

注7 疑問文が事態の承認を留保する文であるという考え方は、森重1959・尾上2006による。

注8 Yes/No疑問文で受け入れがたさを表明する場合もノ有り疑問文の方が安定する。たとえば、入場料金のかかる公衆トイレに驚き、「このトイレ、お金かかるんですか？」と言う場合(「??このトイレ、お金かかりますか?」)など。

ノ有り疑問文とノ無し疑問文の安定度に差は感じられない。

(19) 「この忙しい時期に何を考えてるの^{注9}？」

「この忙しい時期に何を考えてる？」

これら、受け入れがたさを表明する Wh 疑問文は、不明項の特定を相手に求めているわけではない。たとえば(18)(19)では、相手が考えている内容は十分に承知した上で、それが話し手にとっては理解不能であることを表現するためにあえて不定語＝不明部分にして、「何を考えている(の)」と言語化する。そうして理解不能感を表現することが、受け入れがたさを表明することにつながるのである。

このように、疑問文が表明する受け入れがたさの根底には、話し手の理解を超えた事態への意外さがある。したがって、その事態が意外であるということを表明しながら不明項の特定を相手に求めるような Wh 疑問文は、受け入れがたさを表明する Wh 疑問文とつながっている。このタイプの疑問文もノ有り疑問文の方が安定する。

(20) (東京から来た客が地元の特産品を知っていたことに驚いた人が)

「首折れサバなんて、どこで知ったんですか？」

「??首折れサバなんて、どこで知りましたか？」

(21) (目の前の人に莫大な貯金があると知って)

「どうやってそんな大金作ったの？」

「??どうやってそんな大金作った？」

(20)(21)の「～なんて」「そんな」のように意外さを表現する語句が文中にあると、ノ無し疑問文は文としての安定性を大きく欠くことになるのである。

(ウ) 原因理由をたずねる

ある事態の原因理由をたずねる疑問文は、ノ有り疑問文の方が圧倒的に安定する。

(22) 「なんで私に親切にしてくれるの？」

「??なんで私に親切にしてくれる？」

(23) 「鳥と鳥って漢字、意味は違うのに、どうして似ているんですか？」

「??鳥と鳥って漢字、意味は違うのに、どうして似ていますか？」

この事実は既に多くの先行研究で指摘されている(久野 1983・田野村 1990・野田 1997 など)が、金水 2012 は、これが絶対的な規則ではなく、傾向の問題であることを数的調査によって示している。実際に、原因理由を問う疑問文はいつも「ノ」がなければな

注 9 受け入れがたさを表明する場合、「この忙しい時期に何を考えてるの？」は女性的な言い方であり、男性的な言い方では「この忙しい時期に何を考えてるんだ!？」のように文末の形式が「～のだ」となる。

らないというわけではない。年配の男性が目下の者に対して言う場合、しかも純粋に原因理由を問うだけでなくそうした事態が起こったことへの不満も合わせて示すような場合^{#10}には、「ノ」が付かなくてもよい。

(24) (男性上司が部下に)

「何で私に知らせてくれなかったんだ…」

「何で私に知らせてくれなかった…」

しかし、原因理由を問う Wh ノ無し疑問文が文として許されるのは文末に「カ」が付かないときが多く、文末に「カ」が付くときは、話し手の性別や不満の含意の有無にかかわらず、ノがないと安定しないという傾向が強い。

(25) 「何で私に知らせてくれなかったんですか？」

「??何で私に知らせてくれませんでしたか？」

(エ) 相手が握っている正解を聞き出す

相手が握っている真実 (26) や相手個人のプロフィール (27) などを聞き出そうとする話し手の意欲が強く感じられる場合、ノ無し疑問文では不安定であり、ノ有り疑問文の方が安定する。

(26) (患者の家族が担当医師に)

「先生、花子は本当はどのくらい悪いんですか？」

「??先生、花子は本当はどのくらい悪いんですか？」

(27) (同窓会で再会した同級生に)

「久しぶりー。おまえ、今何してるの？」

「久しぶりー。??おまえ、今何してる？」

(28) (電話で)

「もしもし、今何してるの？」

「もしもし、今何してる？」

(27) と (28) では、同じ「今何をしているか」を問う疑問であっても、それが相手の所有する個人情報と言える内容であるか否かについての話し手の意識が異なる。(27) のようにその意識が強い場合にはノ有り疑問文が求められると言えそうである。

(29) (転校生に)

「どこから来たの？」

「#どこから来た？」

(30) (ターミナル駅で待ち合わせ。やってきた友人に)

注 10 この場合には (イ) 受け入れがたさ・意外さを表明するという条件も満たしていることになる。

「何線で来たの？」

「何線で来た？」

(29)と(30)の比較からも、同様のことが言える。転校生がどこから来たかということは転校生のプロフィールの中でも重要な項目の一つであるということが、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の安定度の違いに関係しているように見られる。

このような傾向はまた、個人情報や唯一の真実に限らず、経験や立場などに基づいて「より良く知っている」とみなされる人に対して情報提供を求める場合にも当てはまる。

(31) (水族館で働く人に)

「水族館の仕事ってどんなことするの？」

「??水族館の仕事ってどんなことする？」

(32) (テレビのリポーターが農作業中の人にインタビューする)

「今は何を作ってるんですか？」

「??今は何を作ってますか？」

もちろん、質問である以上、一つ一つの質問はどれも、知らない側が知っている（と想定される）側へたずねるものである。しかし、(28)「もしもし、今何してるの？」／「もしもし、今何してる？」や(30)「何線で来たの？」／「何線で来た？」のような質問は、いわば雑談の一部であり、相手が持つ唯一の正解を聞き出して情報を獲得しようとする意欲を話し手が強く持っているわけではない。

2. 2 了解内容の一部あるいは関係項目が不明な Wh 疑問文

以上のように、(α) ノ有り疑問文の方が安定する条件は、(ア) 眼前の事実の詳細・真相をたずねる（問題にする事態の内容）、(イ) 受け入れがたさ・意外さを表明する（表現の色合い）、(ウ) 原因理由をたずねる（不定語の種類）、(エ) 相手が握っている正解を引き出す（話し手と相手の関係性、話し手の意欲の有無）というようにそれぞれ異なる観点によるものである。しかしながら、それぞれの条件が何を反映したものであるかを分析してみると、条件(ア)(イ)(ウ)は、眼前の事実に対する話し手の了解内容の一部（あるいは関係項目）が不明な Wh 疑問文であるという一つの事情の現れとしてまとめられることが分かる。

Wh ノ有り疑問文において不明部分の明確化が求められる事態（以下、「Wh～ノ」と記す）は、眼前の事実に対する話し手の了解内容（の一部が不明）である場合と、事実がそのようであると話し手が想像した内容（の一部が不明）である場合とがある。

(33) (目の前で口をもぐもぐと動かしている息子に)

「何食べてるの？」…「Wh～ノ」は眼前の事実に対する話し手の了解内容

(34) (帰宅した夫に、妻が)

「お昼は何食べたの？」…「Wh～ノ」は話し手の想像内容

これを踏まえ、改めて(α)ノ有り疑問文の方が安定するケースの条件(ア)～(エ)を見直すと、(ア)(イ)(ウ)の条件はそのWh疑問文が眼前の事実に対する了解内容を問題にしていることから導かれるものであることが見えてくる。

まず、(ア)眼前の事実の詳細・真相をたずねるWhノ有り疑問文、たとえばショーウインドウを覗く友人に「何見てるの?」とたずねる文は、相手がショーウインドウを覗いているという事実を目の前にして、ショーウインドウの中の何かを見ていることは了解できるが、具体的に何を見ているかまでは了解できないため「x(何)を見ている」と、不明部分は不明のまま了解内容を言語化し、「ノ」で括ったものである。したがって、このタイプの文はまさに眼前の事実に対する話し手の了解内容の一部が不明なWh疑問文でしかあり得ない。

(イ)受け入れがたさ・意外さを表明するWh疑問文も同様である。たとえば、忙しい時期に休みを取ろうとする同僚に向かって「この忙しい時期に何を考えているんですか?」と受け入れがたさを表明する文は、相手が休みを取ろうと考えているという事実を目の前にして、実際には何を考えているかは分かっているものの、それが話し手の了解においては到底理解できない内容である、つまり不定語を用いて「何を考えている」と表すしかない了解内容であると表現することによって、受け入れがたさ・意外さを表明するものである¹¹⁾。

そもそも、話し手が基本的には目の前の事実を了解しているにもかかわらず、その了解内容の一部を不定語で表したWh疑問文が成立するのは、目に映った画面の情報だけでは事態の詳細・真相までは分からないという場合か、目に映った画面が理解しかねるものであるという場合かのどちらかである。前者が(ア)眼前の事実の詳細・真相をたずねるという条件、後者が(イ)受け入れがたさ・意外さを表明するという条件に対応する。したがって、眼前の事実に対する話し手の了解内容の一部が不明であるWh疑問文は総じて、ノ無し疑問文では不安定であり、ノ有り疑問文の方が圧倒的に安定するのだと言える。

(ウ)原因理由をたずねるWh疑問文について、原因理由は話し手が了解した事実(結果事態)とは別に存在するもう一つの事態(原因事態)であるから、厳密には了解内容

注11 なお、ノの有無にかかわらず、またYes/No疑問文であろうがWh疑問文であろうが、疑問文すなわち事態の承認を留保する文によって受け入れがたさ・意外さを表現することができるのは、眼前の事実についてのみである。目の前にその存在をつきつけられてもおお承認しかねるということによって、受け入れがたさ・意外さが表現されるのである。

の一部が不明な Wh 疑問文に含めることはできない。とはいえ、結果事態が事実として存在していることを了解してはじめてその原因理由を問うという行為が可能になるのであり、原因理由をたずねる Wh 疑問文は眼前の事実に対する話し手の了解内容を基盤にして、その関係項目の明確化を求める疑問文であると言えよう。

(35) (帰宅した夫に、妻が)

「どうしてお昼、ラーメン食べたの？」

たとえば、(35)は事前にメール・電話等で「(夫は) お昼ご飯にラーメンを食べた」という情報が伝わっていない限り、普通は成立しない問いである。そのような文脈がないにもかかわらず「どうしてお昼、ラーメン食べたの？」と問われたとしたら、夫は「なんで知ってるの？」と言いたくなるであろう。つまり、原因理由を問うという行為は、結果事態を了解しているという前提を抜きにしては決して成り立たない行為なのであり、原因理由をたずねる Wh 疑問文は、「Wh ～ノ」が想像内容（の一部が不明）であることがあり得ない点において、一格項目や場所・時間をたずねる Wh 疑問文とは一線を画す。

ただし、話し手の了解している結果事態は未来の予定として伝えられた情報である場合などもあり、既実現の事態に限るわけではない。

(36) (ロンドンに留学する予定の学生とその友人)

甲：「8月10日に成田を発つんだ」

乙：「授業は9月からなのに、なんで8月に行くの?」

甲：「授業が始まる前にロンドンの生活に慣れておきたいからね」

この場合、甲の「8月10日に成田を発つんだ」という発言により、甲が8月にロンドンに行く予定は情報として乙に与えられ、乙はこれを事実として了解しているのである。

さらに、次の例のような架空の事態についても、原因理由を問う疑問文は成立する。

(37) 刑事 A 「きっと、山田が犯人だ」

刑事 B 「しかし、山田には動機がありません。

山田が犯人だとしたら、彼はなぜそんなことをしたんですか。」

この例において、刑事 A と刑事 B の間では臨時的に「山田がそんなこと (= 犯罪) をした」という仮の共通了解ができあがっているのであり、その文脈の中では、原因理由をたずねることが可能になるのである。

ここまで述べてきたことをまとめると次のようになる。

表2 事態の一部が不明なWh疑問文

「Wh ～ノ」	ノ有り疑問文	ノ無し疑問文
了解内容	○	不安定 (限定的に成立)
想像内容	○	○

表3 原因理由をたずねるWh疑問文

「Wh～ノ」	ノ有り疑問文	ノ無し疑問文
了解内容	○	不安定（限定的に成立）
想像内容	なし	なし

Wh 疑問文は原則的に「ノ」の有無による差がほとんどないといっても、それは話し手の想像内容の一部が不明である場合に成立する原則であり、眼前の事実に対する話し手の了解内容の一部あるいは関係項目が不明である場合はこの原則から省くべきと思われる。本稿冒頭で述べた通り、Wh ノ有り疑問文は「ノ」があるという構造に基づき事実と言語化した事態との一致を強く意識して不明部分の明確化を求めるのに対し、Wh ノ無し疑問文は Wh 疑問文であるがゆえに前提たる事実との一致を意識して不明部分の明確化を目指す。話し手の了解内容の一部あるいは関係項目が不明な場合、前提たる事実は眼前に示された事実であるだけに確固たるものであり、想像内容の一部が不明な場合に前提とする事実（一般的に考えて「夫は会社でお昼ご飯に何かを食べた」）に比べて明確に意識されやすいと考えるのが自然である。ゆえに、そのような Wh 疑問文においては、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の間にある、事実との一致への意識のあり方の小さな違いが大きな違いたり得、ノ有り疑問文の方が安定する（ノ無し疑問文では安定しない）という文の安定度の違いに発展するのだと考えられる。

なお、条件（エ）相手が握っている正解を聞き出す Wh 疑問文は、話し手の想像内容の一部が不明である場合もあり、上記のまとめ方に収まるものではない。条件（エ）の成立時にノ有り疑問文とノ無し疑問文の安定度が異なるわけの説明は、ノ無し疑問文を安定的に用いることができる状況の分析などを踏まえた上で総合的に考える必要があるため、本稿では保留としておきたい。

3. (β) どちらも使えるが意味合いが異なるケース

3. 1 意味の違い方

感情・感覚・判断・評価・思考・欲求・意志など、相手の心の内についてたずねる Wh 疑問文は、ノ有り疑問文とノ無し疑問文で顕著な意味合いの違いが見られることが多い。その意味合いの違い方には次の3つの種類がある。

①ノ有り疑問文は詰問のようなきつい印象を与えるのに対し、ノ無し疑問文はそのような特別な色合いのない中立的な質問として用いられる。

(38) (遊園地に入場して、一緒に来た友人に)

「まずはどこ行きたいの？」

「まずはどこ行きたい？」

(39) (サービスエリアに車を停めて、同乗者に)

「私が飲み物買ってくるよ。何がいいの？」

「私が飲み物買ってくるよ。何がいい？」

したがって、ノ有り疑問文のきつい口調が適さない場面では、ノ有り疑問文は不自然だと感じられることになる。

(40) (乙が甲のために料理を作っているのを見ながら)

甲：「何ができるか、楽しみだなあ」

乙：「#何だと思うの？」

「何だと思う？」

②ノ有り疑問文は既に決まっていて動かしようのないことがらについてたずねているように感じられる¹²のに対し、ノ無し疑問文でたずねると今ここで心の内を決めるよう求めているように感じられる。

(41) (恋人との別れ際)

「次はいつ会えるの¹³？」

「次はいつ会える？」

このような違いを反映して、既に定まっていて変えようがない予定についてたずねるノ有り疑問文「次はいつ会えるの？」は場合によっては「どうせまた長い間会えないんだらうけど」というような諦めの色合いを伴い、今ここで判断することを求めるノ無し疑問文「次はいつ会える？」は「早く会いたい」という願望を背後に感じさせるというように、両者の言外の含みも異なる。

③ノ有り疑問文では単に相手の心づもりをたずねるだけであるように感じられるのに対し、ノ無し疑問文では相手の心づもりをたずねることを通して話し手と相手が協力して一つの答えを作り出そうと相談しているように感じられる。

(42) (友人とレストランでメニューを見ながら)

「何食べるの？」

「何食べる？」

3. 2 相手の心の内をたずねる Wh 疑問文

Wh 疑問文において、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の両方が使えるけれども意味合い

注 12 田野村 1990 はノダ文のこのような表現性格を「既定性」と呼ぶ。

注 13 可能判断も相手の心の内でなされる判断の一種と考える。

が異なるというケースが、相手の心の内をたずねる質問において起こるのはなぜか¹⁴。

人の心の内は「その人物の私的領域であり、私的領域における事態の真偽を断定的に述べる権利はその人物に専属する」（益岡 1997）ため、これを他人が自由に述べることはできないものである。先行研究でも、他人の心の内について平叙文で直接的に¹⁵述べるのは不自然であることが指摘されている（金水 1990 など）。

- ・私は合格して嬉しいです。
- ・??あなたは合格して嬉しいです。
- ・??山田さんは合格して嬉しいです。

また、鈴木 1989 が指摘する通り、他人の心の内について直接的にたずねる文も不自然な発話になることがある。

- ・??コーヒー召し上がりたいですか？

（鈴木 1989。ただし表記については本稿筆者が改めた部分がある。）

しかし、条件を整えば、相手の心の内について直接的に述べたりたずねたりすることも可能であり、岡本・多門 2014 には、平叙文で直接的に他人の心の内を述べる事が許される語用論的条件がまとめられている。また、疑問文に関して筆者の調査したところ、Yes/No 疑問文でも Wh 疑問文でも、条件を整えば、相手の心の内について直接的にたずねることが可能である。

(43) 「もしも私がいなくなったら、悲しい？」（Yes/No 疑問文）

(44) 「今から買い物行ってくるけど、今晚何が食べたい？」（Wh 疑問文）

このうち、(44) のような相手の心の内について直接的にたずねることが許された Wh 疑問文（相手の心の内についてたずねる Wh ノ無し疑問文）が多くの場合 Wh ノ有り疑問文と意味合いを異にするのは一体どういうわけであろうか。

Wh ノ無し疑問文によって直接的に相手の心の内をたずねる場合、本来は相手本人の口からしか言えないことがらである心の内について話し手が言語的に組み立ててしまった上で相手にその一部である不明部分を明確化してもらうのだから、話し手が相手に向かって他者として情報を求めるというよりもむしろ、臨時的に相手に乗り移ってその心の内を勝手に語り始め、しかしどうしても代弁できない一角＝不明部分についてのみ相

注 14 ただし、相手の心の内をたずねる Wh 疑問文がいつも (β) ノ有り疑問文もノ無し疑問文も使えるが意味合いが異なるケースに入るわけではない。眼前に示された相手の心の内に対する話し手の了解内容の一部が不明な疑問文（「うれしい！」と飛び跳ねる相手に対して「何がうれしいの？」など）は (α) ノ有り疑問文の方が安定するケースに含まれる。

注 15 この場合の「直接的に」とは、文末に「ノダ」「ミタイダ」「ヨウダ」のような形式を伴わないことを意味する。

手による発言（不明項の特定）を求めていると理解する方が自然であろう。比喩的に言えば、相手が自らの心の内を語る作業の途中までを話し手が分担してあげた形になるのであり、話し手による質問と相手の答えによって相手の心の内は今まさにこの場で表現されようとしている。よって、相手の心の内をたずねる Wh ノ無し疑問文には今ここで判断するという色合い（「次はいつ会える？」）や、話し手と相手とで共同して決めようという相談の意味合い（「何食べる？」）が感じられるのである。

これに対して、Wh ノ有り疑問文では、相手の心の内について（一部分は不明にしたまま）想像し^{15, 16}、それが事実と一致することを強く意識しながら不明部分の特定を求めるといった問い方をすることになる。事実との一致を意識するということは、相手の心の内に「次は x（何月／何日など）に会える」という判断や「x（何）を食べる」という意志が事実として存在することを前提にしているということであり、ここから、相手の心の内を決めつけているというきつい口調（「まずはどこに行きたいの？」）や、既に決定していることをたずねているというニュアンス（「次はいつ会えるの？」）が生まれる。

このように、本来他人が勝手に述べることはできないはずの相手の心の内をたずねるといった特殊な問いの場面においては、ノ有り疑問文が事実との一致を強く意識していることがそれに基づく含意を生む一方、そのような仕掛けを持たないノ無し疑問文が「直接的」であるがゆえにまた、相手の心の内を述べることに話し手も参加するというようなニュアンスを伴う。この両者を並べてみれば、ノ有り疑問文とノ無し疑問文とで意味合いが異なると見えるのであった。

4. (γ) ノ無し疑問文の方が自然なケース

4. 1 ノ無し疑問文が求められる場面

次のような場面では、ノ有り疑問文を使うと不自然になり、ノ無し疑問文だけが自然な発話となる。

(45) (ソムリエが客に)

「#ワインは赤と白、どちらになさるんですか？」

「ワインは赤と白、どちらになさいますか？」

(46) (タクシーの運転手が、乗ってきた客に)

注 16 「Wh ～ノ」が眼前の事実に対する了解内容である場合には (α) 文の安定度が異なるケースに当てはまるので、(β) (γ) は「Wh ～ノ」が話し手の想像内容である場合の中での話である。

「#どちらに行くんですか？」

「どちらに行きますか？」

(47) (授業で先生が生徒に新出漢字の読みをたずねる)

「#この漢字は何と読むんですか？」

「この漢字は何と読みますか？」

これらの場面に共通するのは、話し手の純粋な好奇心あるいは知的欲求から心に浮かんだ疑問を解消するために、答えを知っていそうな人にたずねるものではないということである。(45)～(47)の話し手は、それぞれの職務を遂行する(客にワインを出す、客を行き先へ連れて行く、生徒に新しい漢字を教える)ためにまず、相手の意向や認識を把握する必要がある。そのための質問には、Whノ無し疑問文を用いるのが自然であり、Whノ有り疑問文を用いたのでは不自然に感じられるようである。

ただし、どこまでを「そのための質問」とみなすかには注意が必要である。(47)と同じ、教師が生徒に漢字の読み方をたずねる質問でも、次のような場面ならばノ無し疑問文だけでなくノ有り疑問文も自然に用いることができる。

(48) (授業の冒頭で先生が生徒に)

「はい、前回の復習をします。この漢字は何と読むんでしたか？」

「はい、前回の復習をします。この漢字は何と読みましたか？」

授業の復習として前回教えた知識の確認をする(48)のような場面では、教師と生徒の間で一度共有した事実(この漢字はこう読むという事実)を問うている。ここから、ノ無し疑問文だけが自然になるのは、話し手の未だ知らない、相手の心中にしかない意向・認識を引き出す場合であると理解することができる。

4. 2 相手の意向・認識を引き出す Wh疑問文

上のような場面でノ無し疑問文が必要とされることについては既に多くの指摘があるが、特に吉田 1994 はこの問題を詳細に論じている。吉田氏は、検察の事情聴取やタクシー運転手から乗客へ行き先をたずねる質問などを《尋問》、教育的意図による教師から生徒への質問やクイズ・なぞなぞの出題などを《試問》と呼び、これらを“例外なく質問行為が行なわれるような場面においてなされる質問”という意味で<制度性発問>と呼んでいる。吉田 1994 は、Whノ有り疑問文とWhノ無し疑問文は原則的には差がないと見る本稿や金水 2012 と異なり、説明要求(筆者注:Wh疑問文による質問)はノデスカ型(本稿でいう「ノ有り疑問文」)を用いるのが常態であるという前提に立つのだが、その例外として<制度性発問>においてはマスカ型(本稿でいう「ノ無し疑問文」)の方がノデスカ型よりもふさわしいと述べている。吉田氏はこの現象について、「《尋問》や《試問》においては、質問しようとする質問者のエネルギーによって帯電

した“場”が、そこに現れた不定語という空欄を十分に内容補充要求たらしめるのであって、わざわざノデスカ文型を用いる必要はない」と説明している。

しかし、これはマスカ型（ノ無し疑問文）を使ってもよい理由にはなっても、マスカ型（ノ無し疑問文）でなければならない（ノデスカ型よりマスカ型の方がふさわしい）理由としては不十分であろう。吉田氏の言う「例外なく質問行為が行なわれるような場面」とは結局どのような場面なのか、それがマスカ型（ノ無し疑問文）の必要性とどのように関係しているのかといったことが説明されなければ、マスカ型（ノ無し疑問文）の方がふさわしい理由を述べたことにならない。

本稿では、このような場面でノ無し疑問文が必要とされるのは、「例外なく質問行為が行なわれるような場面」であることが理由なのではなく、ソムリエと客、タクシー運転手と客、授業中の教師と生徒のような人間関係でそのような内容をたずねる場面が、単に情報として正解を求める質問の場面ではなく、話し手の行動内容を定めるために相手（客、生徒）その人の意向・認識を引き出ししておく場面であることが関係していると考えられる。このような場面は、客や生徒が自ら「（ワインは）赤をお願いします」「新宿までお願いします」「この漢字は「うみ」と読みます」と言う前に、不明部分は不明にしたまま、それ以外はすべて話し手（ソムリエ、運転手、教師）が言ってあげて「不明部分さえ埋めれば、あなたの意向・認識を表明したことになりますよ」と誘導して相手の意向・認識を引き出すことが許され、かつそれがある程度習慣となっている点で特徴的である。

これは結局、(β) どちらも使えるが意味合いが異なるケースで相手の心の内をたずねる Wh ノ無し疑問文が、相手の心の内を語るプロセスを途中まで肩代わりし、相手が不明部分を特定することをもってそのプロセスを完了させるのと同じ問答のあり方ではないだろうか。相手の意向・認識は本来本人のみに述べる権利があるという点で「心の内」に準じるものであるため、これをたずねる Wh ノ有り疑問文と Wh ノ無し疑問文に、(β) の場合と同様の違いが現れるとしても不思議ではない。

ただし、(γ) のケースが (β) のケースと異なるのは、場面の状況が Wh ノ有り疑問文が持つことになる含意と相容れないため、これを使うと不自然になってしまう点である。話し手の職務遂行上の必要から相手の意向・認識を引き出すこのような質問は、言ってしまうば話し手のための質問なのであり、相手の中にそのような意向・認識が事実として存在することを前提としてその事実との一致を強く意識し、それを明かすよう求めるノ有り疑問文を用いるのは失礼な感じがするのであろう。もちろん、タクシーの場面などでは、実際は乗車時点で行き先について相手の意向が存在しているものと思われるが、問い方の作法としてそれを明かすよう求めることは避けるべきなのである。

5. まとめと今後の課題

以上、本稿では Wh 疑問文において「ノ」の有無が問題になるケースを洗い出し、それがどのような特徴・背景を持つ疑問文であるためにノ有り疑問文とノ無し疑問文を同じように使えないのかを分析した。結論は以下のように整理することができる。

(α) 文の安定度が異なる (ノ有り疑問文の方が安定する)

- | | |
|----------------------|---|
| (ア) 眼前の事実の詳細・真相をたずねる | } = 眼前の事実についての了解内容
の一部あるいは関連項目が
不明である |
| (イ) 受け入れがたさ・意外さを表明する | |
| (ウ) 原因理由をたずねる | |
| (エ) 相手が握っている正解を聞き出す | |

(β) 意味合いが異なる

…相手の心の内についてたずねるという特殊な問いにおいて、事実の存在を前提とするノ有り疑問文と、「直接的」であるノ無し疑問文とでは、それぞれの含意が異なる

(γ) 自然さが異なる (ノ無し疑問文の方が自然である)

…話し手の職務遂行上の必要から相手の意向・認識を引き出す質問において、その意向・認識が相手の内に存在することを前提とし、それを明かすよう求めるノ有り疑問文を用いるのは不作法に感じられる

原則的には「ノ」の有無による意味の差がほとんどないはずの Wh 疑問文においても、問題にすることがらの種類や質問をする場面の状況によっては、ノ有り疑問文とノ無し疑問文の構造上の小さな違いが大きな違いとみなされ、時にはどちらか一方しか使えないというところにまで及ぶのであった。

本稿では Wh 疑問文に対象を絞って考察を行なったが、Yes/No 疑問文の方こそ、より鮮明に「ノ」の有無による意味の違いが現れると予想される。Yes/No 疑問文におけるノ有り疑問文とノ無し疑問文の違いのあり方を整理した上で、Yes/No 疑問文と Wh 疑問文に一貫して見られるノ有り疑問文・ノ無し疑問文それぞれの構造やそれに伴う運用上の特徴を把握することは今後の課題としたい。

【調査資料】

’92年鑑代表シナリオ集 (シナリオ作家協会編・映人社) 『シコふんじやった』

同’98 『学校Ⅲ』

同’99 『39 刑法第三十九条』 『学校の怪談4』 『皆月』 『どこまでもいこう』

同’01 『日本の黒い夏 (冤罪)』 『連弾』 『ターン』 『GO』

同’09 『余命1ヶ月の花嫁』 『ディア・ドクター』 『沈まぬ太陽』

同’10 『スイートトリトルライズ』 『孤高のメス』 『酔いがさめたら、うちに帰ろう』

同'11『毎日かあさん』『八日目の蝉』『大鹿村騒動記』『モテキ』

【参考文献】

- 大鹿薫久 1990「疑問文の解釈」『語文』55
- 岡本真一郎・多門靖容 2014「他者内心表現における人称制限の解除」『日本語文法』14-2
- 尾上圭介 2006「存在承認と希求—主語述語発生の原理」『国語と国文学』83-10
- 金水 敏 1990「述語の意味層と叙述の立場」『女子大文学（国文編）大阪女子大学紀要』41
- 金水 敏 2012「日本語の疑問詞疑問文と「の」の有無」『語文』99
- 久野 暉 1983『新日本文法研究』大修館書店
- 鈴木 睦 1989「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にして成り立つか—」『日本語学』8-2
- 田野村忠温 1990『現代日本語の文法Ⅰ—「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 野田春美 1997『「の（だ）」の機能』くろしお出版
- 益岡隆志 1997「表現の主観性」田窪行則（編）『視点と言語行動』くろしお出版
- 森重 敏 1959『日本文法通論』風間書房
- 吉田茂晃 1994「疑問文の諸類型とその実現形式—ノデスカ／マスカ型疑問文の用法をめぐって—」『島大国文』22

(はやし じゅんこ 人文社会系研究科 博士課程3年)